

シンポジウム「酪農教育ファーム20年を節目に」  
～酪農を通して食やしごと、いのちの学びを未来につなぐ～

登壇者プロフィール



平成30年9月22日

一般社団法人中央酪農会議／酪農教育ファーム推進委員会



亀田 康好 (かめだ やすよし)

シンボライズファーム(埼玉県坂戸市)経営主

1954年生まれ。酪農経営の傍ら、30年ほど前から近隣の幼稚園へ乳牛を連れてのふれあい訪問を続ける他、牧場での体験受入も行っている。

酪農教育ファーム認証制度検討委員として、認証制度の創設に尽力。また、全国各地で行われている小学校等への出前授業「わくわくモーモースクール」の基礎を作り上げた。さらに、内閣府食育推進会議・食育推進基本計画検討会に専門委員として参加し、その後食育推進評価専門委員を3期務める。

酪農教育ファーム認証牧場：2001年度～（第一期）

酪農教育ファームファシリテーター：2009年度～（第一期）

地域交流牧場全国連絡会会員：1998年～（第一期）

酪農教育ファーム認証制度検討委員：2000年度

酪農教育ファーム専門委員：2004年度

酪農教育ファーム推進委員：2005年度～2008年度

内閣府食育推進基本計画検討会専門委員：2005年度～

食育推進評価専門委員会専門委員：2007年度～2013年度



**大藪 真裕美** (おおやぶ まゆみ)  
**オオヤブデイリーファーム(熊本県合志市)**

1977年に酪農家の夫と結婚し、酪農を始める。「日本の農業が存続していくための応援団を育てたい」という思いで、1993年より、地元の小学校への出前授業を開始。その翌年には牧場を開放しての体験イベントを始める。2001年に酪農教育ファームの牧場認証を取得。現在は、年間で小学校等20校程(約1,500人)を牧場にて受け入れている。

酪農教育ファーム認証牧場：2001年度～(第一期)  
 酪農教育ファームファシリテーター：2009年度～(第一期)  
 地域交流牧場全国連絡会会員：1998年～(第一期)  
 酪農教育ファーム九州地区推進委員：2005年～



**藤田 まり子** (ふじた まりこ)  
**熊本市立力合小学校 校長**

専門は理科で、30歳台から理科教育を続け、現在も熊本県小学校教育研究会理科部会会長やソニー科学教育研究会(以下「SSTA」)本部役員の一人として理科教育に携わる。

2002年から3年間、SSTA熊本支部として取り組んだ酪農教育の研究で酪農体験をしてその価値を実感し、それ以来、酪農教育に没頭。異動した先では必ず実践している。酪農については当初全くの無知で、初めての分娩体験では「F1」を知らず、雌だから少しでも長く生きることができると思っていたら「この子はお肉になるんですよ」という大藪真裕美さんの一言で「そんなにしてまで牛乳を飲まなくてもいい、お肉を食べなくてもいい」という自分勝手な思いで思考停止してしまい、フリーズ。次の日の朝、大藪さんから手紙をもらって酪農家の思いを実感し、これをライフワークとすることを決心。日本酪農教育ファーム研究会においては「牛乳が消えた」紙芝居などの作成に協力。

日本酪農教育ファーム研究会副会長  
 ソニー科学教育研究会(SSTA)常任理事  
 全国小学校理科教育研究協議会副会長  
 熊本県小学校教育研究会理科部会会長



**田中 怜** (たなか さとし)

**大阪府立農芸高等学校 教諭**

大阪府立農芸高等学校資源動物科卒業、酪農学園大学酪農学部農業経済学科卒業。

トヨタ系自動車販売（ディーラー）営業職に6年間従事した後、2014年より現職。同校に3つある農業学科のひとつ資源動物科の酪農専攻を担当している。

同校は、2015年、当時の3年生が過去の酪農教育ファーム活動に関する卒業論文に興味を持ったのがきっかけで、酪農教育ファーム活動に取り組み始める。2年間は独自に活動を進め、本格的な活動を目指すため2017年度に酪農教育ファーム牧場認証を取得。

なお同校は、2018年度より文部科学省「スーパープロフェッショナルハイスクール」に指定されている。これは、大学・研究機関・企業等との連携の強化等により、社会の変化や産業の動向等に対応した高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を図る専門高校等が指定されるもので、同年に指定を受けたのは全国にわずか8校。

酪農教育ファーム認証牧場：2017年度～

酪農教育ファームファシリテーター：2017年度～



**小西 さくら** (こにし さくら)

**大阪府立農芸高等学校資源動物科3年生**

滋賀県大津市立志賀中学校卒業。大阪府立農芸高等学校資源動物科に在学中。

同校の資源動物科にて酪農を専攻。授業に組み込まれた実習のひとつとして、ファシリテーターである田中教諭の指導の元、近隣の小学生への出前授業等の酪農教育ファーム活動を実践している。

大阪府教育委員会 教育長賞 受賞：2018年度

大阪府食育ヤングリーダー認定：2017～2018年度



**廣瀬 文彦** (ひろせ ふみひこ)

**リバティヒル広瀬牧場(北海道帯広市)**

1991年から牧場での酪農体験受入を始める。酪農教育ファーム認証制度検討委員として認証制度の創設に尽力し、酪農教育ファーム推進委員も2002年度から6年間務める。現在は長男に経営を譲り、酪農教育ファーム活動等をメインに行う。地元の幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・社会人の他、札幌や釧路、関西地域からの修学旅行生など合わせて、年間で2,000人程度を受け入れている。

酪農教育ファーム認証牧場：2001年度～（第一期）  
酪農教育ファームファシリテーター：2009年度～（第一期）  
地域交流牧場全国連絡会会員：1999年～（第一期）  
酪農教育ファーム認証制度検討委員：2000年度  
酪農教育ファーム推進委員：2002年度～2008年度  
地域交流牧場全国連絡会会長（二代目）：2002年度～2008年度



**清水 一将** (しみず かずまさ)

**清水牧場(愛知県刈谷市)後継者**

1981年生まれ。2001年に愛知県立農業大学校を卒業し、実家の清水牧場に就農。現在は父、母、従業員らとともに酪農を行っている。

清水牧場は第一期の牧場認証を取得しており、本人も第一期のファシリテーター認証を取得。牧場では幼稚園の見学、小学生の社会見学、中学生の職場体験学習など年間約2,000人を受け入れる。カリキュラムにより刈谷市の全公立小学校が清水牧場で体験を行っている。好きな言葉は「為せば成る」。

酪農教育ファーム認証牧場：2001年度～（第一期）  
酪農教育ファームファシリテーター：2009年度～（第一期）  
地域交流牧場全国連絡会会員：1998年～（第一期）



**横山 弘美** (よこやま ひろみ)

**練馬区立大泉南小学校主幹教諭**

2001年、前任校で学区内にある小泉牧場(東京都練馬区)に3年生の子供たちと訪問し、総合的な学習の時間として「小泉牧場たんけん」をスタート。小泉さん親子の姿勢に自らも学び、牧場で子供たちが生き生きと学ぶ姿に深く感銘を受けた。以降、「小泉牧場たんけん」は学校の教育課程における学習に位置づいている。酪農教育ファームの価値を強く感じ、中央酪農会議の酪農教育ファーム専門委員ともなり、全国の酪農家や実践する教員とつながることができた。教育の立場から、酪農教育ファーム活動を探求し、教員の情報共有と研究する必要性を感じ、2010年に日本酪農教育ファーム研究会の立ち上げに関わった。事務局長として、会の運営に携わる。

日本酪農教育ファーム研究会 事務局長  
酪農教育ファーム関東地域推進委員  
ホワイトデーボード・ミーティング®認定講師  
酪農教育ファーム専門委員：2014年度～2015年度



**小谷 あゆみ** (こたに あゆみ)

**農業ジャーナリスト・フリーアナウンサー**

1970年生まれ。兵庫県出身・高知県育ち。関西大学文学部卒業。

石川テレビ放送を経て2003年からフリーアナウンサー。グリーンチャンネルの畜産番組リポーターとして全国の牧場100ヶ所を訪問。また、野菜をつくる「ベジアナ」として都会のベランダ菜園から「農」に親しむ暮らし、都市と農村のフェアな関係をめざす。人も地域もハッピーになる持続可能な生産をテーマに取材・講演。日本農業新聞コラム連載中。

NHK Eテレ「ハートネットTV 介護百人一首」司会13年  
農林水産省 食料農業農村政策審議会 畜産部会臨時委員ほか





姫田 尚 (ひめだ たかし)

公益社団法人中央畜産会・副会長

1955年生まれ。1979年3月京都大学農学部畜産学科卒業。同4月農林水産省入省。生産局飼料課草地整備推進室長、消費・安全局消費者情報官、生産局畜産部畜産振興課長、消費・安全局動物衛生課長、消費・安全局総務課長、大臣官房審議官(消費・安全局)、内閣府食品安全委員会事務局長等を歴任。

初代の酪農教育ファーム推進委員や認証制度検討委員として組織的な酪農教育ファーム活動の立ち上げに尽力し、その後、認証審査委員や認証研修会の講師も務める。農林水産省消費・安全局消費者情報官時代に食育担当として食育基本法の制定に加わり、食やいのちの学びを支援する酪農教育ファームの概念を食育基本法につなぐ役割を果たした。2016年6月に農林水産省を退職後、公益社団法人中央畜産会参与、総括参与を経て2017年より現職。



渋谷 一典 (しぶや かずのり)

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
(併任)国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官  
生活科及び小中高等学校の総合的な学習の時間 担当

北海道札幌市出身。1990年から札幌市立小学校教員として19年間勤務。この間、札幌市生活科・総合的な学習教育連盟に加入、生活科及び総合的な学習の時間に関する授業研究に取り組む。

その後、2009年から8年間にわたり、札幌市教育委員会指導主事として主に学校における教育課程等に関する指導・助言を行う。その間、文部科学省初等中等教育局教育課程課による「学習指導要領解説(小学校生活編、小学校総合的な学習の時間編、中学校総合的な学習の時間編)」等の作成協力に携わる。

2017年4月から現職。教科調査官、教育課程調査官として小学校生活科及び小・中・高等学校の総合的な学習の時間に関する研究及び学習指導要領に基づく専門的・技術的な指導・助言に当たっている。

## パネルディスカッション(モデラー)



**松原 明子** (まつばら はるこ)

有限会社オフィスラ・ポート 代表取締役／酪農教育ファームアドバイザー

1961年広島県生まれ。大学卒業後、出版社や広告代理店で編集やライターを経験を経て、1996年に独立。その後、2003年に会社を設立する。酪農教育ファームとの出会いは、この活動を企画し、立ち上げに尽力された伍代正樹さん(故人)に紹介されたことがきっかけとなる。2000年より本格的に事業に関わり今年で19年目を迎える。現在は、酪農教育ファームアドバイザーとして事業全体をコーディネートするとともに、機関紙「感動通信」や各種教材の企画と制作をはじめ、酪農教育ファームの研修会や研究会の企画と運営に携わる。酪農教育ファームの取材を通して、いのちのぬくもりや食への感謝など精神的で文化的な豊かさを確認し、自らの感性にも大いに刺激を受ける。生きる上で大切にしたいことは、直感と好奇心そして自分であるということ。

## 総括



**國分 重隆** (こくぶ しげたか)

日本酪農教育ファーム研究会会長／東京都教職員研修センター教師養成塾教授

酪農教育ファーム設立以前より、牧場の教育的な価値を見出すための調査活動を始める。酪農教育ファーム創設のメンバーの一人。

公立小学校の校長時代には、「本物から学ぶ」を学校経営の根幹におき、各勤務校(2地区3校)で、わくわくモーモースクールを実施(全5回)。積極的に酪農教育ファームを学校教育に取り入れ、併設された幼稚園児も含め、延2500人以上の子供たちに「命・食の大切さ」を学ばせる教育活動を実現した。東京23区で初のヤギ飼育も行った。2010年に日本酪農教育ファーム研究会を発足し、初代会長に就任。教師と酪農家、乳業関係者のつながりを基盤にして、牛や酪農を学校教育に活かし効果を上げるための活動に現在も取り組んでいる。

酪農教育ファーム推進委員

関東地域酪農教育ファーム推進委員

酪農教育ファーム認証制度検討委員：2000年度

元全国小中学校環境教育研究会会長 元東京都小中学校環境教育研究会会長